

秋号

じいちゃん
どんなおはなしが
あったの？



これはなま。
葛城市上山川から
山川あたりに伝わる
おはなしだよ。

民話を楽しまっ

将門とその妻

文・結城市教育委員会
挿絵・佐々木 明

鬼怒川の近くに豊田の里というところがありません。そこに家を持っていた平将門は、おくさんの「桔梗の前」と一緒にくらしていました。二人はいつも一緒に、豊田や岩井、守谷のあたりを歩きまわっていたので、里人たちは、その仲のよいことをうらやましく思うほどでした。

ところが、将門は不幸なことに、家の財産のことでおじたちとあらそいをおこし、ついに、おじの平国香を殺してしまったのです。おじの親せきの源護という人とも争いまし

た。それは土地のことが原因でしたが、やがてそれは大きな戦いへと広がっていきました。将門は、日に日に勢いをもりあげ、戦いは将門の軍が一方的に勝ちました。

護は、将門のおじ平吉兼に応援を頼んで、四千人もの兵を集めて、京都から帰ってくる将門を不意打ちしようとまちぶせました。何も知らないで、少しの家来をつれて将門は帰ってきたのです。そこを護はおそったのです。これではさすがの将門もかなうはずがありません。それでも、どうやら命だけは助かりました。

将門は、さっそく兵を集めて護の陣地にせめ入りました。将門のたたかいかたはふしぎな力をもっていました。

朝に上総かみさきの国くに（現在の千葉県）を不意討ちしたかと思うと、夕方には数百キロもはなれた相模さ摸国くに（現在の神奈川県）に突然現われるといった調子です。

そして将門は、またたく間に関八州（現在の関東地方）をせいふくしてしまっただのです。さらに天慶二年（九三九年）十二月十五日相馬の土地に、京都を形取つた大内裏をきずき、自分から新皇しんのう（新しい天皇）と名のりました。

その頃、京都にいた国香の長男の貞盛さだもりは、将門をたおす計画を立て、朝廷に許しを願い出ました。こうして、朝廷から将門をたおせとの命令を受けた貞盛は、下野しもつけ（現在の栃木県）にたてこもっていた弓の名人、猿藤太藤原秀郷におうえんを頼んだのです。

将門の妻の「桔梗の前」のふっくらとした横顔にさびしげなようすが見えはじめたのは、



ちようどその頃のことでした。それというのも「桔梗の前」が秀郷の娘だったからです。戦いの前の夜、「桔梗の前」は自分から命をたちました。秀郷、貞盛の軍と将門が戦うさまを見ることができなかったのでしょう。

ついに将門と秀郷・貞盛の軍と戦う日がきました。天慶三年二月十四日、関八州には春の風が、右に左にかけめぐり、黄色い砂煙りがまいあがる中を、衣冠姿いかんまゐの大将、将門が一人前面に現われました。ドツと軍勢が将門めがけて押しよせてきました。

するとどうでしょう。将門の姿は、ここまで来てみる、というように砂煙りの中に消えていきました。するとこんどは正反対の南の方に現われました。しかし、大将の秀郷はこのようすをじっと見ていました。そして、口の中で、「こめかみの動く将門」とわけのわからぬことばをつぶやいていました。



秀郷の軍もつかれて、たたかいても負けそうになってきました。

その時です。将門がふたたび前の方に現われました。きんちょうをしているのかこめかみが激しく動くのが手にとるようにみえました。にっこりほほえんだ秀郷は、なかでも長いかぶら矢をぬきとると、きりきりと弓を引きしほりました。

「南無三……」

ピピッと音をたてて、矢は、ねらいをはすすことなく将門のこめかみにつき通ったのです。

将門はついにやぶれました。

将門の早わざ、戦法のトリックはほかでもない、七人の影武者だったのです。秀郷はどれが本物の将門か、その秘密をしらへることを、そっと「桔梗の前」に命令していたのです。桔梗のかなしみは大変なものでした。それでも親皇と自分を呼び、朝廷にてむかひをする将門は悪い人とされていたのです。桔梗はついに「ほんとうの将門はこめかみが動く」と秀郷に教え、自分から命をおとしたのです。

「桔梗の前」の墓のあたりには、それ以後、キキョウの花はいつさい育たないといわれています。また花の色と同じ紫の衣をつけて墓の前を通っただけでも病気になるといわれています。

また将門にかんけいのある神社の前もキキョウの紋をつけて通ると病気になるともいわれています。たぶん、将門をうらぎった桔梗にたいする人々のいかりがそんなうわさとなったのでしょう。

諏訪神社(結城市上山川)
勝負の岩



勝負の岩と呼ばれる境内に古くから伝わる大岩。将門の軍勢の矢から秀郷を守ったと言われる。岩に触れると力をいただき、願いが叶うと言われている。

将門とかんけいあるものは、結城地方にもたくさんあります。もと上山川中学校があったところに旧結城寺という寺がありました。将門がこの寺にお参りしたり、寺の近くを通ったことが古い本にかかれていきますし、山川新宿にあった綾戸城(山川城ともいう現在の結城寺南方)も将門の館たかやがあったところといわれています。

また、上山川の原や南茂呂にある諏訪神社は、将門と戦った秀郷がいくさに勝てるようにと長野県の諏訪神社の神様をまつたものといわれています。

おしまい